

# No. 1083

## 中日20年ぶり優勝

10月12日、午後8時9分大洋・山下大の打球が島谷のグラブにダイレクトですい込まれた瞬間、中日ドラゴンズの20年ぶりの優勝が決った。

地元、中日球場で3万5千人の超満員のファンを集めて行なわれた中日対大洋のダブルヘッダー。第1戦に9-2で大勝した中日は第2戦に勝てば優勝。

中日は必勝を期して、エース星野仙をマウンドに送ります。2回の裏、谷沢が右中間に二塁打、続く大島も死球で出塁、無死二塁・一塁と絶好のチャンス。木俣併殺打のあと、広瀬が四球で出てバッターは9番星野仙。星野は気力の左前二塁打、中日早くもリードを奪います。さらに5回、6回にも大洋の投手陣に集中打を浴びせ3点を追加、一方守ってはヒジ痛を隠して力投する星野が大洋打線を1点におさえ、結局6-1で中日が連勝、自力でセ・リーグの優勝を決めました。

星野仙と木俣が抱き合い、与那嶺監督やナインがベンチから飛び出した。狂喜したスタンドのファンは津波のように押し寄せ、マウンドを中心に厚い大きな輪が出た。次々に五色のテープが投げ込まれ、紙吹雪が舞った。ごった返す人の波、グラウンドは興奮のるつぼと化した。

ダシに乗せられた優勝トロフィーがグラウンドを一周した時、その興奮は最高潮に達した。初の最優秀監督になった与那嶺監督は「ナインが一生懸命やってくれたお蔭で優勝がとれた」とチーム・ワークの勝利を強調した。

中日と最後まで優勝争いを演じた巨人、川上監督からは「優勝おめでとうございます。日本シリーズでも頑張ってください。」という祝電が届いた。

ミスター・プロ野球と、たたえられた長島茂雄は今年を限りに17年間の現役生活に別れを告げた。

10月14日、澄み切った秋空の下、歓喜のどよめきが名古屋の目抜き通りにこだました。20年ぶりの宿願を果たした中日ドラゴンズの祝賀パレードは50万人を越す群集の熱狂的な歓迎を受けた。オープンカーに乗った与那嶺監督以下選手たちはさし出される握手に一人一人こたえた。選手会長星野仙が「日本一になって全員でパレードすることを誓います」と日本シリーズの勝利宣言をして祝賀パレードをしめくくった。